

海外から次々と御坊へく国際色豊かに交流

御坊市に「国際化」の風が吹き始めた。16日には御坊市名誉市民第1号・和田勇の家族がアメリカからやってきた。20日には中国から老人学関係者約60人が訪れ、視察と交流を深めた。いずれも「人は優しく自然は素晴らしい」と御坊をほめた。国際色豊かに育ちつつある御坊市を市民みんなで盛り上げていきたいものだ。(竹内 文雄記者)

大きな功績を再認識
和田勇パネルディス

御坊市名誉市民第1号・故和田勇の功績などを話し合うパネルディスカッション「東京にオリンピックを呼んだ男」和田勇に学ぶが17日、御坊市民文化会館で開かれた。ゲストとして和田勇の次女・メアリー・マリコ・ロースさん(77)がアメリカ・サンフランシスコから駆けつけ、「父の偉大さ」などを紹介した。パネルディスカッションは、岡本恒男・和田勇顕彰会事務局長ら2人で、コーディネーターは大谷春雄・御坊市文化財保護審議委員を務めた。この中でマリコさんは父親について「午前3時から起きて働いた努力家。事業家として成功しても『分かち合う』を実践。東京オリンピック誘致のため、自費で中南米を歴訪するなど、常に人のために尽力する人だった」と紹介。母親についても「オリンピック日本開催の同意を取り付けた。パネルディスカッションのために、チリやメキシコなどを訪問した際、自分の着物を提供するなど広い考えを持っていた。父を支えた」など、父を振り返りながら話した。



和田勇の実績を話し合う



笑顔のマリコさん夫妻

寺内町会館も訪問
和田勇の次女夫妻

マリコさんと夫のブレントさん(73)は16日、和田勇の資料やパネルなどが展示されている市内の寺内町会館を訪問した。父が戦後間もなく訪米した日本の水泳チームを自宅に受け入れて援助した時の写真をはじめ、東京オリンピックの際着用した制服などを見て感激した様子だった。和田さんの親戚の人たちも駆けつけ、夫妻と歓談した。マリコさんは柏木征夫市長も訪問し、市長から置き時計がプレゼントされた。マリコさんは「父の古里・御坊は本当に素晴らしいところだ」と感激していた。